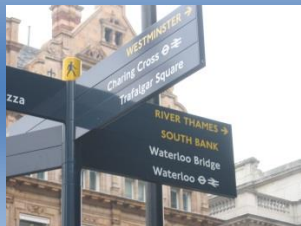


British Politics Today

2014年11月1日
第3巻 第11号



著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 イギリスは EU を脱退するか？
- 3 半年後に変わるイギリス政治
- 4 イギリス政府のチーフ・エグゼクティブ
- 5 鉄の女サッチャーの真実

UKIP が伸びるほど EU 脱退支持者が減少

Ipsos-Mori の世論調査

2014年10月

EU に留まる 56%

EU から離脱 36%

1. はじめに

イギリス政治が大きく変化している。表面に現れているのは、有権者の主要政党離れ、イギリス独立党 UKIP の台頭、スコットランド独立投票後のスコットランド国民党 SNP の躍進だが、イギリス政治が根底から揺らいでいる。3 で見るように UKIP や SNP がこれほど大きな影響を与えるとは、誰も想像していなかった。単に政党支持の問題ではなく、有権者が政治に求めるものの変化しているように感じる。

2. イギリスは EU を脱退するか？

EU の欧州委員会が、イギリスの新しい国民所得計算方式で、その分担金を計算し直し、約 17 億ポンド (3000 億円) の追加負担金を 12 月 1 日までに支払うように求めてきた。キャメロン首相は怒り、その通りには払わないと主張。イギリスの多くの新聞はイギリスの EU 離脱が近づいたと報道した。

キャメロン政権はこの計算の根拠を徹底的に争った上で、負担金の減額並びに長期の分割払いを交渉すると見られている。他の加盟国は、イギリスが払うのは当然だとしているが、この追加負担金を支払えば、2 人の保守党下院議員が脱党して参加したイギリス独立党 (UKIP) に手を貸すことになるため慎重だ。

キャメロン首相は次の総選挙に勝てば、EU を改革し、イギリスの EU との関係を変えた上で、2017 年末までに EU に留まるかどうかの国民投票を実施すると約束している。EU に留まることを望むキャメロン首相が EU 加盟国との交渉で最も重要な課題としているのは EU 内の移民の制限である。しかし、これは EU 内の移動の自由の原則に触れる。この原則を変えることに理解を示している国はドイツを含め EU 内になく、交渉は困難だ。もし、保守党が半年後の総選挙で勝ち、交渉の結果にかかわらず、国民投票を実施することになればどうなるか？

2014 年 10 月に行われた [世論調査](#) で EU に留まりたいという人は 56%、離脱は 36% だった。留まりたい人の割合は過去 23 年間で最も高い。イギリスの EU からの離脱を謳う UKIP への支持が高くなっているのに EU に留まることに賛成の有権者が増えている。この世論調査の [分析](#) ではイギリスの最も重要な対外関係は欧州との関係と見る人が 47% (コモンウェルス 25%、アメリカ 20% と続く) である。

有権者の多くに既成政党離れがあり、UKIP が他の政党と違うと見ている人は 80% で、それが UKIP への支持につながっている。しかし、UKIP が極端な政党だと見る人は 64% おり、そのため極端を嫌う有権者が UKIP の目指す方向とは反対の方向に動いているようである。イギリス人には中庸を好む傾向があり、UKIP が強くなればなるほど有権者は EU との関係継続に動くようだ。もしそうなら UKIP 対策で UKIP 寄りの政策を打ち出す保守党の戦略に疑問が生じる。

3. 半年後に変わるイギリス政治

次期総選挙は来年 2015 年 5 月 7 日に予定されている。情勢はかなり流動化しているが、6 か月後の選挙の結果、イギリス政治は大きく変わるだろう。

まず、いずれかの政党が過半数を占める可能性は少ない。その可能性のある政党は、保守党と労働党だが、いずれの政党も大きな弱みを抱えている。保守党の票が UKIP に流れているが、労働党票もある程度 UKIP に流れている。さらに労働党は、スコットランドで SNP に席卷される状況だ。労働党は、2010 年の前回総選挙でスコットランドの下院議席 59 議席のうち 41 議席を獲得したが、このほとんどを SNP に失う状況である。全国の世論調査では保守党と労働党は 30 数パーセントで拮抗しているが、現在の選挙制度では、世論調査の支持率が同じ程度の場合、労働党に有利。下院の総議席数 650 のうち、前回の総選挙で保守党は 305 議席、労働党は 258 議席を獲得したが、次期総選挙では、いずれも 300 議席には届かないだろうと思われる。

次に UKIP の台頭だ。UKIP は 10 月の補欠選挙で初めて下院選挙で当選者を出した。そして 11 月 20 日のもう一つの補欠選挙でも勝つのは確実と見られており、UKIP は 2 議席となるだろう。支持率は徐々に上昇しており、今や 10% 台後半である。UKIP は 5 月の欧州議会議員選挙でイギリスのトップとなったが、この選挙は比例代表である。下院は完全小選挙区制で各選挙区の最高得票者が一人当選する制度のため、下院議員選挙で勝つ可能性は少ないと見られていた。ところが UKIP への支持が強まり、次期総選挙では 10+ の議席獲得の可能性があると見られている。UKIP は全選挙区に候補者を立てる予定で、最も大きな影響を受けるのは保守党である。保守党と労働党の競っている選挙区では、労働党が漁夫の利益を得る可能性が高い。

さらに SNP である。SNP は独立住民投票の後、党員数が 3 倍以上に増えた。労働党の選挙組織が時代遅れになっているとの批判があるが、SNP の組織はかなり若く、しかもその動員力は極めて強力だ。2011 年のスコットランド議会議員選挙の選挙間近の支持率急上昇、独立住民投票の投票日前の賛成支持の急激な追い上げは、恐らく次期下院総選挙でも同じだろう。その結果、SNP が前回のスコットランドでの 6 議席から 40 議席+の議席へと躍進する可能性がある。

保守党と連立を組み、2010 年総選挙の 23% の得票率が、今や支持率一桁となった自民党は 57 の議席が半減以下となるだろう。スコットランドでの支持はほとんど消え失せ、前回の 11 議席から 1 から 2 議席となるのは必死のようだ。

以上を考えると、次期総選挙では、現在のキャメロン政権のように保守党と自民党が連立しても過半数には届かないだろう。保守党と労働党の連立は、有権者の主要政党離れをさらに加速する可能性があり、ありえないと思われる。保守党には北アイルランドの民主統一党 DUP という選択肢もあろう。また UKIP との連携も検討されるかもしれないが、これらの政党が自民党とともに連立を組むことは考えにくく、保守党と労働党の次の議席を持つ第 3 党の SNP が次の政権を決めるキングメーカーになる可能性がある。しかし、これはスコットランドをイギリスから独立させたい SNP に非常に大きな力を与えることになる。

2015 年 5 月 7 日予定の次期総選挙は、過半数を占める政党のないハングパーリアメント(宙づりの国会)となり、スコットランド国民党 SNP がキングメーカーに。



秋の街並み

4. イギリス政府のチーフ・エグゼクティブ

政府が新しくチーフ・エグゼクティブのポストを設けた。公務員トップの内国公務の長（Head of the (Home) Civil Service）が退任するのに伴って機構改革を行い、新しく設けられた事務次官級ポストであり、公務員改革を推進し、政府をよりビジネスライクにすることを目的としている。公募で大きな企業を運営したことがある人物を求めた。

結局、2014年2月から内閣府で政府全体の主要プロジェクトを監視するMPA（Major Project Authority）のチーフ・エグゼクティブであるジョン・マンゾーニ（54歳）が就任。石油メジャーBPのナンバー2となった後、カナダのタリスマン・エネルギーのCEOを務めた人物である。政府のポストの年俸は19万ポンド（3420万円：£1=180円）だが、BP時代の2006年には株式も含め140万ポンド（2億5200万円）だったという。

この仕事は単にプロジェクトを監視する仕事とは異なり、公務員改革を進めるため、事務次官を始め公務員を動かす必要がある。また、手続きの公正さを重んじる政府の仕事と、結果が重要な民間企業には大きな違いがある。上司にあたるのは、公務員トップの内閣官房長（Cabinet Secretary）兼新内国公務の長、内閣府公務員制度担当大臣、財務副大臣と3人いる。他の事務次官の上のポストではなく、その責任関係と影響力が明確ではないといわれる。これらが応募者の少なかった理由の一つのようだ。どの程度のインパクトがあるか注目される。

庭のキクの花 (Garden Mums)



雑記

アフガニスタンのイギリス軍が最終的に撤退した。2001年のニューヨーク同時多発テロの直後に開始された戦争は、アルカイダとタリバン相手に13年間続いた。アフガニスタンで最も危険だと言われるヘルムンド地区から約300のイギリス軍が500余のアメリカ海兵隊とともに撤退し、それぞれの役割をアフガン軍兵士に交代した。

この戦いには、イギリス軍の合計14万の兵士が加わった。453人が戦死し、多くの負傷者を出した。

この撤退の日、タリバンが攻撃してくるのではないかとこの恐れがあり、空からの護衛も含め、厳重な警戒態勢が敷かれた。これは、現在のヘルムンド地区の状態を象徴している。多くの戦費を費やし、多くの人命を失ったにもかかわらず、この地域は安全な場所とは程遠い状態だ。

イギリス国内の世論調査によると、68%の人が、イギリス軍のアフガニスタン介入には、その価値がなかったという。参戦を決めた当時のブレア首相の判断の甘さが浮き彫りになっていると言える。

ブレア元首相は、アメリカ軍らとの共同行動が、世界的にテロを防ぎ、しかもアフガニスタンを平和にし、さらにアフガニスタンで栽培されているアヘンの生産量を減らし、アヘンがイギリスにもたらされるのを防ぐことができると信じていた。

ところが、世界的なテロは今なお続き、アフガニスタンは戦争状態のままだ。しかもアフガニスタンのアヘン生産量は減少するどころか増大した。この介入にまったく効果がなかったとは言えないだろうが、費用、人命などを考えるとその価値に疑問が残る。イギリス政府がシリア・イラクに兵を送るのをためらうのも無理はないといえる。

5. 「鉄の女」サッチャーの真実

イギリス最初の女性首相マーガレット・サッチャーは、「鉄の女」として有名だ。しかし、[その側近として1981年から84年まで働いた人物によると](#)、1982年のフォークランド戦争はサッチャーに非常に大きな負担をもたらせたという。サッチャーはこの戦争にたいへんな責任を感じ、心配し、そしてそれがサッチャーのそれ以降に大きな影を投げかけたようだ。

これには1979年に首相となった後、サッチャーの強硬な政策に反対する党内勢力(ウェット派(Wets))に対応するのに神経をすり減らしたこともあるという。

首相としての支持率が歴史的に低くなったサッチャーが首相として再選されるとは誰も思っていなかったが、1982年のフォークランド戦争がその命運を変えた。この戦争の勝利で人気を回復し、しかも野党第一党の労働党が分裂する中、サッチャーは1983年の総選挙で大勝した。保守党は下院で他の政党の合計を144議席上回った。

その時、誰もがサッチャーは政権運営に自信満々だろうと思ったが、実はそうではなかったという。この総選挙勝利の数日後、サッチャーが、自分の政権はそう長くないと思う、保守党は次の選挙を自分の下で戦いたいと思わないだろうが、責められない、と語ったという。サッチャーは弱気になっていた。

サッチャーの仕事ぶりは有名だ。深夜まで働き、その睡眠時間は4時間と言われた。しかし、1983年総選



湖水地方で泊まったホテル。かつてキャメロン首相も泊まったことがある。



丘の上から見た、湖水地方のウインダミア湖

挙以降、サッチャーの仕事のペースはそれまでと同じではなかった。エネルギーが衰えたように見え、真夜中を超えて働いたり、夕食会のお客を引き留め、さらにディスカッションをしたりするといったことがほとんどなくなったという。

それでも、サッチャーは「鉄の女」の面を大いに発揮する。それまで党内基盤がぜい弱であったため、自分の内閣にウェット派を多数抱えていたが、それらの多くを内閣から追い払い、また、1985年には、政権を象徴した出来事の一つである鉱山労働者との対決で勝利を収めた。次の1987年の総選挙でも保守党は余裕をもって勝ち、サッチャー政権は1990年まで続く。

ただし、今回明らかになったのは、自分を信じ、疲れを知らず、強いリーダーシップを発揮して働き続けたと信じられていたサッチャーに非常に人間的な面があったことだ。自分への疑いを持ち、しかも政敵との戦いに神経をすり減らしていた。サッチャーの「鉄の女」の面は、自分を守る仮面であったかもしれない。多くの重圧にさらされ、苦しみながらも、「理想の首相」像を演じ続けたサッチャーから学べることは少なくないように思える。

サッチャーの人生については拙著[「マーガレット・サッチャー：イギリスを変えた女性」](#)を参照。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み：tomo@kikugawa.co.uk